

見知らぬ薬にご注意を。

appleティー

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

### ◇作品紹介◆

この作品の主人公は警察の中でも名をはせるほどの犯罪者である・鳴海理穂（なるみりほ）。

今日もとある殺人事件に手を出してしまった。

その帰り道に立ち寄ったコンビニで「あなたの人生を変える薬」に出会う。

飲むことをためらう鳴海だが、最後にもういつちよ！と殺人事件を起こし、薬を飲んだ。

それからの鳴海の人生は？

## 目次

登場人物	×	プロローグ	1		
薬を飲んだ！	鳴海里穂はどうなる…？	×	appleティー		
の楽屋	×	鳴海里穂の探偵1 LIFE	はじまります！	6	
鳴海里穂、	人気探偵になる？	×	鳴海里穂、	殺人事件を解決する？	10

## 登場人物 × プロローグ

### 登場人物 紹介

#### ・ 鳴海理穂

25歳。大学卒業してから3年目の社会人。

でも昔から親がひどいことをしていたためにそれに反逆する形です。ずっと不良をしていた。

でも成績は抜群。オール5を小学一年生から高校3年生までずっと取り続けるほど。

しかもモデル雑誌「con con」からのスカウトをもらうくらい的美貌を持つ。

身長178cm。誕生日12月29日。

趣味はアイドル鑑賞。人気アイドルグループ「lovely Rose」の大ファン。

☆皆さん、ここまででは超優等生の美人、という人にしか見えないと思います。が、

彼女は実は犯罪者なんですよ！

逮捕されてないだけで警察の中でも名をはせるくらいだね！☆

#### ・ 阿室刑事

35歳。鳴海よりも10歳も上の警部。

捜査一課のエリートで、今までいくつもの時効直前の事件を片付けてきた。その数は1000以上。

そんな刑事だが、今のところ唯一片付けられていない事件というのが鳴海理穂の犯した殺人事件。

身長187cm。誕生日が12月4日。

趣味はアイドル鑑賞。鳴海が大好きな「loverly Rose」と同じ事務所の「cool guy」が大好き。

それを鳴海にばれているためにいつも出し抜かれている。

・聖涼宮（聖涼宮）

彼女は鳴海を犯罪者にした張本人。

中学校の時からずっと転校を年度に5回くらいしていた。

でも、勉強はとでもできるため、いつも退学の時に校長から

「キミがこの学校を去るのはとても残念だ」

と言われてしまうほど。

鳴海理穂の大変なプロローグ

はあ。今日もなぜだかイラつく。

ここは私の家の近くの町・米花町1丁目。

でも、今ここは目暮警部の捜査中。

目暮警部はへっぽこだから意外と殺つても殺つてもやってもばれない。

でも殺るとばれるんだよね。この町には江戸川コナンという探偵がいるから。殺るとやると探偵しようねん  
まあ、ばれないだろうから…

パーン！

鳴海理穂が早速殺人を犯した。

「何か銃声が聞こえたんだんだが…んまあ気のせいかな。」

目暮警部が一瞬気になったが、すぐに目をそらした。

目暮警部の弱みを握っている鳴海は、すぐにその場から逃げた！と思っただが…

「あなた、何しているんですがって!!!あなた指名手配中の鳴海理穂さん!」

逃げようと思ったたらさっそく高木刑事にばれてしまった。

「たぶんそれ、あなたの勘違いですよ。」

不敵に笑った私。

高木刑事の目を盗んですぐに立ち去った。

「高木刑事の魔の手から逃げられたし、コンビニでも行きますか。」

私はコンビニに行くことにした。

私がいつも行くコンビニは「米花サンコーマーケット」。

サンコーマーケットは品ぞろえが豊富で価格も安くてとてもいいんだ。

しかも警視庁の人がいかないくらいのマニアックなところだし。行くとしたら目暮警部あたりかな。

まあそんなわけで私はコンビニに入った。

何にしようかな

いつもの通り商品を選んでみると（私は大体ブラックコーヒーとサンドイッチだけだね）見慣れない薬があることに気が付いた。

その薬の表示には「飲んで変えよう、あなたの人生！人生みらい」と表記されていた。

好奇心は誰よりもある私はその薬を手を取った。

レジでお会計を済ませた。

さつき買ったこの薬だが、私は今すぐにも飲みたいと思っていた。でもそれで犯罪者という私の未来が変わってしまったら…

そんな恐ろしさもあったので、まずは殺ること殺ることやることを済ませてから飲もうかな！

その私が向かったところは米花町のど真ん中。米花町1丁目。

さあ、皆さんお分かりだろうか。わたしはまた殺人を犯すことにしたわけだ。

パーン！

私はまた拳銃を撃った。つまり殺人を犯したのだ。

「またお前か！鳴海里穂！」

阿室刑事の怒声が聞こえた。やっぱり。私が関わると思われる事件にはすべてに顔を出すあの刑事。

彼の名は阿室警蔵。いかにも警察って感じ。ってどうしょ！



薬を飲んだ！ 鳴海里穂はどうなる…？ × a  
people ティーの楽屋 × 鳴海理穂の探偵 I L I  
F E はじまります！

阿室刑事が駆けつけてきた現場。

私が恐れる最悪な展開。阿室刑事が駆けつけてきたからには普通ではない。

まあしようがない。とりあえずずらかろうかな。

「ちよつと待ってね。鳴海さん。今日もまたまたずらかろうなんて考えてないよね。」

阿室刑事からのその言葉。つまりやばいってこと。

まあしようがない。とりあえずずらかろう。今は聞き込み中だし。

ずらかった私はビルに入った。“あの”薬を飲むためにね。

とりあえずあの薬を飲んでみた。

うっ

飲んでから10分後。何かが変わった気がした。

なぜだか私は殺人欲がわかなくなってきた。

何かの殺人を捜査して逮捕に貢献したいという、探偵の欲がわいてきたのだ。

落ち着いてパッケージを見てみると・

「阿笠製薬」

と書いてあった。

なるほどね。つまり江戸川コナンが阿笠博士に頼んで殺人をした  
くなくなる薬を作ったわけね。

私はすぐに悟ったのだが、まさかそれをコンビニにおけるほどに  
なっていたとはね。

米花町はやはり殺人が多いから、殺人を犯す人を少しでも少なくし  
ようと考える人も多いわけだ

apple ティーの楽屋♪

こんにちは！楽しくみてますか？

この物語はまあ、コナンの世界では追っかけまわされまくるとい  
う犯罪者の観点から書いてみました。

あと皆さん！（これを書いている時点では）私の推しアイドルであ  
る嵐が活動休止まで1日ほどしかないっ！

ということで、ジャーニーズでこのアイドルいいよ！っていうのがあ  
るかた！コメント欄に書いて下さい！お願いします

ということとで続きをどうぞ！

鳴海理穂の探偵 L I F E はじまります！

まあ、そんなことで探偵として活動を開始した私・鳴海理穂。

でもこの町にはあの江戸川コナンが居候しているという毛利探偵事務所。つまり毛利小五郎がいる。

あの探偵は泣く子も黙るといふ米花町が生み出した最強の探偵。

その探偵には勝てないしな…

と、思ったが、勝てるところが私にもいくつかある。

まず彼は自分で推理していない。

毛利小五郎は江戸川コナンが助言をする、または麻酔銃で寝てコナンが代わりに話すことで成り立つ探偵だ。

だから私は寝なくとも推理してやる!!

まずそれには事務所を持たないと…何しろ探偵業は依頼人と直談判することが多いしな。

そう思った私は、工藤家に居候しているという沖矢昴がいた木馬荘（火事があったが修復した）の一室を借りることにした。

とりあえずまずは頑張るか。

あと…探偵は持たないっていうけどSNSの公式アカウントでも作って、その次はそうそうHP（ホームページ）も作ろうかな。

でも私、今になってとても重要なことに気づいてしまった！それはもともと自分が犯罪者だったこと。

警察の中でも結構名の知れた私が刑事たちの目の前で推理を披露して事件を解決させる。そんなことをしようものなら逮捕されてしまう。

だがその心配はない。

私はメイク一つで顔を別人に変えられるという驚異的な能力を持っているから。

高校一年生で有名なモデル雑誌「con con」からスカウトを受けた私は20歳までずっとカリスマモデルとして活動していた。

メイクをするとここまで変わるの。

っていうか、私の家にはいつもいつも髪の毛のセット道具を置いているのだ。

引っ越しの時もいろんなときも。

鳴海理穂、人気探偵になる？ × 鳴海理穂、殺人事  
件を解決する？

鳴海理穂、人気探偵になる？

探偵業を初めて1か月。

私の1か月の解決した事件の量は10件ほど。そのほとんどは迷子の犬や猫探し。

でも今日は違う。だって、女子高生をターゲットとした探し物の秘訣などを投稿し始めたからだ。

そのとたん、女子高生からの依頼が尋常じゃないほど来ているうちに、私がつもと「concon」の人気モデル・Asucaだったことを知ったからだ。

Asucaは、「concon」だけでなく一時期レギュラー番組を4つ抱えるという伝説的なモデルで、引退した今でもconconつ子からも尊敬のまなざしで見られるという。

キンコーン

今日は見慣れないおじさんが。

でもなんか見た限り警察の人っぽい。ひげ面の茶色の帽子・・・

って！それまさか目暮警部じゃないか？まさか私のことを逮捕しに来たんじゃ

ばれていないとしても私はすぐにばれる存在。だからメイクして髪を結んで……

ふう。10分かかってようやくできた。

「どちら様ですか？」

正体は分かかっていてもとりあえず声をかける。

「警視庁の目暮だが。」

私の予想通り。警視庁の目暮警部が来たようだ。とりあえず中に入れる。

「目暮警部、当然今日ははどうしたんですか？いつもの高木刑事や佐藤刑事……？」

「今日？ああ佐藤君と高木君は急用でな。捜査一課に強盗が入ったらしい。」

さてと。今日は阿室刑事から頼まれた仕事を君にこなしていただこうと思つてな。

阿室刑事によると毛利君の推理は本物のじゃないというんでな。

つまり何者かが後ろから助けているというんだ。

そしたら彼女がおすすめだつて言つて君の探偵業の拠点・「鳴海理穂探偵事務所」

に来たつてわけだ。」

とにかく長い目暮警部の説明が終わつた。

内容が頭に入っていない読者のために要約すると……

(・佐藤刑事と高木刑事は急用↓捜査一課に強盗団

・阿室刑事から頼まれた用件をこなしてもらおう。

・阿室刑事↓毛利小五郎の推理は裏から何か細工をしているかもしれないから信用ならない)

という内容だ。

まあしようがないから目暮警部のお願いは聞かないとね。だって阿室刑事は捜査一課の刑事の中でもピカイチとっていいほどめんどくさいから。

「はい。それは何のお願いでしょうか。」

「それは殺人事件の解決のお願いだ。今回の殺人事件は少々やっかいだな。捜査一課でもいろいろな頭脳明晰刑事を悩ませているというものだ。さあ、行こう。ここから少し遠い現場なのでな。」

鳴海理穂、殺人事件を解決する？

結局悩んだ結果、私の服装はこれにした(つて言っても探偵におしやれは関係ないか)

「すみませ〜ん。服を着替えるのに少し手間取ってしまつて。」

目暮警部から早くしてほしいという話は合つたのに15分も着替えにかかつてしまった。

正直言つて自分も元々殺人鬼だった。だからその現場に探偵として入るといふことに戸惑いを隠せない。

そもそも私が殺人鬼になつてしまつたのは高校生時代が原因だ。

とりあえず行ってみますか。

ガチャ。

ドアを開けた瞬間に殺人鬼が入り込んだのではないかと思うくらい、  
いの血が垂れていた。

でも私はすぐにわかった。そんなあとをつけるのは一人しかいないからだ。

そう。その名も私が殺人鬼になるきっかけを作った・聖涼宮ひじり  
すずみ。

でもそんなことを言えば、目暮警部に怪しまれてしまう。

しかも彼女は私の素性を知っている。探偵開始からわずか。だが、  
今私は窮地に立たされている。